



生きるを、ともに、つくる。

公益社団法人 日本看護協会

## 日本助産評価機構が新たに992人認証 アドバンス助産師 1万2,000人に

助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）<sup>®</sup>レベルⅢ認証制度（以下、CLOCMiP<sup>®</sup><クロックミップ>レベルⅢ認証制度）の認証機関である一般財団法人日本助産評価機構は、第3回の認証結果を公表しました。2018年度の合格者992人が「アドバンス助産師」として認証され、合計1万2,000人となりました。

本制度は、「日本助産実践能力推進協議会」（日本看護協会、日本助産師会、日本助産学会、全国助産師教育協議会、日本助産評価機構の5団体）が2015年度に創設した、全国共通の仕組みです。

現在では、医療計画の周産期医療の体制構築に係る現状把握のための指標として明記され、また診療報酬改定で新設された「乳腺炎重症化予防・ケア指導料」算定のための施設基準にも明記されるなど、アドバンス助産師の活躍が期待されています。

報道関係の皆さまには、この機会にご紹介頂きますようお願い申し上げます。

【都道府県別合格者数】 日本助産評価機構ホームページ (<https://josan-hyoka.org/info/>) 参照

### ■CLOCMiP (Clinical Ladder of Competencies for Midwifery Practice) レベルⅢとは？

地域や施設機能・特徴に関わらず、自律して助産実践ができる助産師の評価のためのツールとして、日本看護協会が「助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）」を開発しました。新人・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの5段階のレベルがあり、今回の認証制度では、レベルⅢの能力を認証します。

<レベルⅢの到達レベル>

1. 入院期間を通して、責任をもって妊産褥婦・新生児の助産ケアを実践できる
2. 助産外来において、個別性を考慮したケアを自律して提供できる
3. 助産外来において、指導的な役割を実践できる
4. 院内助産において、自律してケアを提供できる
5. ハイリスクへの移行を早期に発見し対処できる

申請には、分娩介助例数100件以上などの申請要件に加え、教育や管理がレベルⅢ相当であることの施設内承認が必要です。認証申請に合格した助産師は「アドバンス助産師」として認証されます。右上の図が認証マークです。

